



## 令和4年度 ベストプラクティス企業への職場訪問

11月の過重労働解消キャンペーンの一環として、令和4年11月25日（金）に福井労働局長（田原孝明）は、時間外労働の削減に積極的に取り組む企業を訪問しました。

### ○職場訪問概要

#### 1 訪問日時

令和4年11月25日（金）10:00～

#### 2 企業概要

- (1) 名称 株式会社武生製麺
- (2) 所在地 越前市真柄町第7号37番地
- (3) 代表者 代表取締役社長 桶谷洋介
- (4) 労働者数 106人（パート含む）
- (5) 業務内容 そば（生そば専門）の製造・販売



### ○株式会社武生製麺の取組

#### 1 労働時間削減への課題

株式会社武生製麺では、そば粉の製粉から製麺・つゆ作り・包装まで一貫生産しているが、その製造ラインは50年ほど前から使用していたものであり、定期的に補修・メンテナンスをしていたものの、どうしても故障等の不具合を起こす頻度が高くなってきており、恒常的な時間外労働の大きな原因となっていた。

また、設備の故障等の回数やそれによって製造ラインが止まってしまう時間について、設備や作業の改善のために、作業員がストップウォッチなどを使って測定し、把握しておりましたが、アナログな手法をとっていたため、記録があいまいで客観性に乏しいデータしか取れず、正確な製造ラインの稼働率や設備改善のための効果的なポイントが把握できていなかった。

このことは作業員の評価についても同様であり、従前は作業員の経験・技量の差や配置場所による稼働率（作業停止時間など）への影響などが分からないため、作業員の能力把握についても漠然とした具体性に乏しいものしかできていなかった。



桶谷社長（右奥）から取り組み状況などの説明を受ける局長（左奥）

## 2 労働時間削減のための取組内容及び効果

- (1) 上記課題により時間外労働が恒常的に多く発生していたため、製造設備の新鋭化を順次、進めるとともに、高精度センサーなどのデジタル技術を組み込んだ「稼働率自動集計システム」を導入し、従前のアナログな手法による管理からデジタルな技術を利用した管理に切り替えることにより、製造ラインごとの稼働率や作業員ごとの稼働率への影響のほか、製造ラインや作業方法の改善を図るべきポイントも判断しやすくなった。



現場作業に従事する主任（右側中央）を交えた意見交換の様子

これらにより、作業員からの設備改修や作業方法改善に関連する意見が多くできるようになるなど、作業員の業務に対する意識向上も図られ、ハードの更新と作業員の意識などソフトの向上の相乗効果により製造ラインの稼働率が従前の 70%程度から 100%に迫るまでに向上した。

この結果、年越しそば需要による繁忙期である 11～12 月を中心に毎月、恒常的になっていた時間外労働について、大幅な削減に成功し、令和 4 年になってからは月間で、概ね 10 時間未満となっている。



部長から工場内の製造ラインや稼働率自動集計システム等の説明を受ける局長

- (2) 時間外労働時間が大幅に減った他の要因として、作業員の時間外労働に対する意識が変わったことも大きく影響しており、従前は一部の製造ラインでトラブルが発生した場合は、いわゆる付き合い残業のような実態も認められたが、現在では仕事は基本的に定時に終わるものという意識を強く持つようになり、時間外労働は必要な部署が必要な時間だけ行うようになってきている。また、これらを含めた職場環境の改善により、新規採用者を含めた離職率の低下という効果にも繋がっている。

その他、業務の閑散期である 1～3 月を中心に、「稼働率自動集計システム」の運用方法や、技能優秀者の作業ぶりを動画に撮影し、これを参考に研修を実施するなどにより、作業

員のさらなる技能向上にも努めているほか、作業方法や設備等の有効な改善策を提案した作業員に対して、部門長推薦による表彰や賞金の授与を行うなどにより、労働者の時短意識を高めるなど、積極的に労働時間の削減に取り組んでいる。

○ 企業訪問を終えて（田原労働局長）

今回、企業訪問をさせていただいた武生製麺さんのケースは、設備改善が労働時間の削減につながった正に好事例と言えるものであります。新しい設備の導入による生産性向上はもちろんですが、機械の稼働時間、停止時間が正確に把握でき、従業員個々人の生産性も分かるようになり、従業員自身が生産性の高い他の従業員から学び、自身の生産性を向上させようとするなど、従業員の仕事に対する意識の向上にもつながったとお伺いしました。また、生産性の向上に伴い労働時間が短縮され、仕事は定時に帰るという労働時間についての意識の変革がなされたとお伺いし、今般の設備改善が従業員の勤労意欲やワークライフバランスの意識変革につながる好循環が生まれていると感じました。

また、実際に現場で作業されている方にも、お話を聞かせてもらいましたが、その表情からも、御自身のスキルアップが、会社の業績アップにつながっているというような自負が感じられ、武生製麺さんの職場環境が良好なものになってきていることが窺えました。